

# 天敵、アシナガバチの怪 異常高気温続く

日本はもう秋たけなわの頃かと想像しています。

ジャララバードはなかなか暑さが去らず、皆、閉口していましたが、先週短い夕立があって、急に冷えてきました。

今週は工事の報告はありませんが特記すべきは養蜂関係です。

以前の報告で、「日本のスズメバチに相当する、ミツバチの天敵は居ない」と述べましたが、思わぬ天敵がいました。

先にビエラの林でアシナガバチがやたらに多く、ミツバチをほとんど見かけませんでした。今週、再び行ってみると、ミツバチの箱に例のアシナガバチが寄ってくるのです。養蜂係が一所懸命アシナガバチを追い払っています。尋くと、巣箱に侵入してミツバチの幼虫を食べるのだそうです。日本のアシナガバチはこんなことをせず、決して天敵ではありません。

まさかとは思いましたが、観察すると確かに巣箱の穴を伺い、防ごうとするミツバチを噛み殺したりしています。スズメバチの間違いではないかと目を疑いましたが、形は紛れもなくアシナガバチ属です。養蜂係は種の名を知りませんでしたが、私に説明した生活史は正確で、間違いなくアシナガバチのそれでした。

今年は、暑さのせいかなアシナガバチが大繁殖、活動が止まないとの事でした。ミツバチたちは恐れて巣から出ず、せつかくのビエラのごちそうは凶暴な敵に占拠されています。吸蜜するミツバチも襲われるそうです。

「今年はビエラの蜜はダメなのか」と問えば、「雨が降って気温が下がると、悪い蜂は死ぬから大丈夫」とのこと。

アシナガバチが悪い蜂とは思わないけれど、気になって気温が下がった昨日行ってみると、確かにその通りでした。死んだのか、数が少なくなっています。ミツバチの活動は11月までで、天敵が居ないわずかな時間差を利用して集団越冬の準備をします。その冬越し用の蜜を我々がピンハネすることを思うと、死滅するアシナガバチに何やらあわれを感じるのです。

次回、ビエラの花と実にたかるミツバチの姿をお届けします。

**マルワリード堰改修**は、連続堰ができた2014年に計画されていましたが、その後治安の悪化で寄りつけず、やっと今回、職員一同の悲願達成となります。16年後の改修は、その間のできごとを思うと感無量、気合を入れて臨みたいと考えています。

2019年10月4日 記

ダラエヌールからガンベリ農場に巣箱が移されたが、アシナガバチに閉口、スリッパを「ハチタタキ」にして巣箱を守る養蜂係。雨が降って涼しくなれば・・・と話した翌日に降雨があり、アシナガバチは激減した。2019年10月1日





シギ分枝排水路工事は工事先端が終点（1.9 km地点）に達している。2019年10月1日





シギ分枝排水路、約 1700m地点。後は植樹を待つばかりだ。2019年 10月 1日





ラグマン州からの受講生。二週間の研修を終えて卒業。大学の灌漑科からの学生が多く、活気のあるクラスだった。ラグマン州で PMS 方式の拡大を呼びかける学生グループも現れ、それだけでも訓練計画の甲斐があったとの声あり。2019年10月2日





本日、マルワリード堰改修の準備工事が始まりました！ 構造物（補助水門と土砂吐き）の位置と大きさを決めるため、取水口付近の整地と樹木の伐採が行われました。2019年10月5日





一昨日の降雨で濁流となったクナール河。見かけは粗いですが、マルワリード堰は見れば見るほど安定していて、取水量の問題さえなければ手を加える必要がないとさえ思われます。しかし、先を考えると万全の備えにこしたことはありません。今冬ははりついて頑張ります。2019年10月5日

